様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年　4 月　9 日現在

機関番号：１０１０１
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：２００９～２０１１
課題番号：２１６０１００１
研究課題名（和文）　大学博物館所蔵古写真の現代的意義に関する研究

研究課題名（英文）　A study of contemporary importance of old pictures in university museum

研究代表者
加藤　克（KATO MASARU）
北海道大学・北方生物圏フィールド科学センター・助教
研究者番号：50321956

研究成果の概要（和文）：
博物館関係者が残したおよそ 25,000 カットにおよぶ古写真（プリント・ネガ）のデジタル化とデータベース化を行い、被写体や撮影場所、撮影時期の調査を行った。本研究では、(1) 写真を用いて博物館標本の失われた情報を復元したこと、(2) アイヌ文化研究の基盤となる情報となりうることを確認したこと、(3) 地域文化財の記録を復元したことなどが成果といえる。さらに、整理結果を目録（報告書）として刊行し、各地域の大学・図書館等に配布し、本プロジェクト期間に限定されない利用体制を構築したことが最大の成果である。

研究成果の概要（英文）：
We digitalize and made a database of 25,000 old pictures taken by professors worked for university museum. In this project, (1) we restored the specimen information by using the old pictures, (2) we were sure that the pictures are base information for Ainu Culture research, (3) we restored the record of local cultural property. The most valuable result of this project is catalogue of the pictures. This catalogue was sent to many libraries, research institutions, it will be utilized for various purposes

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
2011 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総　計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：博物館学
科研費の分科・細目：博物館学
キーワード：写真、博物館、資料学

１．研究開始当初の背景

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園・博物館には、八田三郎（動物学）、犬飼哲夫(動物学、民族学、文化財行政)、名取武光(考古学・民族学)ら博物館関係者が残したとみられるガラス乾板、フィルム、写真プリントなど推定 10,000 カットに及ぶ膨大な写真資料が残されていた。これらは、これまで文化財建築復元の参考資料や、博物館史、標本史研究を目的として部分的に整理・利用され、極めて有意義な資料であることが認識されていたが、大部分が未整理の状況にあった。

また、平成 15 年に北海道大学農学部の地

下に保管されていた犬飼哲夫の資料が移管され、その整理の過程で、博物館に保管されていた写真群をはるかに超える数の写真（ネガ・ガラス乾板・プリント類）が含まれていることが確認された。これらの写真も上述したような価値を有するものと推測されてはいたが、乱雑に保管されてきたためにその全体像をつかむことは困難であり、またその数量の問題から、未整理のまま管理されてきていた。

一方、博物館では、動物・考古・民族資料目録の刊行や研究紀要を通じた研究支援活動の充実に努めてきたことから、資料・標本利用件数が増加してきたが、120 年にも及ぶ博物館の歴史の中で、標本・資料情報が失われたものも多く、利用に支障が生じていた部分があった。この問題を改善するために、旧資料台帳や古記録類を利用した研究を行い、情報提供を行ってきた。しかしながら、博物館資料及び背景情報にとどまらず、収集当時の状況を把握できる情報や民族学研究にあたっては当時の利用方法などが把握できる情報の有無についての問い合わせも多く、写真・研究ノートを含めた古記録の収集・整理・公開が緊急の課題と位置付けられていた。

２．研究の目的

本研究の目的は、上述した博物館の資料管理と研究支援上の課題を解決することを目的として、大正末から昭和中期にかけて多大な業績をあげた研究者が博物館に残した研究用写真を、単に彼らの業績を示す存在としてだけではなく、21 世紀の研究資源、文化資源として重要な資料であることを示し、研究グループ内の利用にとどめず、社会の共有財である博物館資料として公開、利用できるように調査・検討を行うことである。

具体的には、ガラス乾板や中版のフィルムなど、現在ではプリント作業が困難なネガ資料群をデジタルカメラ、PC を利用して資料を劣化させることなく、かつ安価に高精細な画像として利用できるように処理し、基本的な研究資源とすることを第 1 の目的とする。ついで、個々の画像がいつ・だれによって・どのような目的で撮影されたものであるのかについて調査・検討を行い、データベース、目録化作業を行い、博物館内部での利用ではなく、多くの研究者が利用できる、資料情報が付属する良質な研究資源とすることを第 2 の目的とする。以上を基盤として、(1)撮影者が博物館に残した標本・資料との照合による情報の追加、(2)調査フィールド(天然記念物・文化財調査を含む)の現地確認による 1 世紀間の変化確認、(3)撮影者が意図せず残した記録を利用した現代的観点からの研究利用、(4)撮影者が論文に利用しなかった写真を含めた過去の研究成果の再検討、(5)社会に還元するための公開方法の検討などの調査・検討を推進する。

３．研究の方法

本研究は、(1)写真・フィルムの研究資源化、(2)個々の写真の情報整理、(3)博物館資料・動物・考古・民族・文化財の分野ごとの照合、現地調査を行う。

写真の研究資源化にあたっては、小規模博物館においても活用できるデジタル化方法の検討、情報共有のあり方に留意し、今後の日本の博物館活動の発達に貢献できるような手法を用いることとした。

写真の情報整理にあたっては、単純な被写体の情報調査だけではなく、研究者の残した写真であることを念頭に、博物館関係者の著作物、雑誌記事などをできる限り収集し、利用されている写真との照合を行い、過去の研究利用情報の整理にも力点を置いた。

研究を適切に遂行するために、研究分担者(山崎幸治・北原次郎太：北海道大学)、連携研究者(三浦：北海道開拓記念館)、研究協力者(道内各地の博物館職員、北海道立アイヌ文化研究センター職員、北海道大学植物園技術職員)で研究グループを構成する。打ち合わせ会議を実施し、計画立案、修正、進行状況確認、調査結果のとりまとめなどを行う。得られた成果については、博物館資料目録、ホームページでの情報公開、企画展示による普及活動を通じて、社会に還元することとした。

４．研究成果

研究開始当初、所蔵古写真は 10,000 カットと推定していたが、整理・デジタル化の結果、25,000 カットを超える写真が確認された。ネガとプリントが対応するものや、焼き増したプリントなど重複もあり、実質的には 20,000 カット程度になる。これらには、写真を撮影した研究者の家族写真なども含まれていたため、すべてが研究資源として有益なものになるかどうかは検討の余地はあるものの、大部分は博物館のスタッフであった八田三郎・犬飼哲夫・名取武光が調査・研究の際に撮影したもの、文化財行政の視察時などに撮影したものなどが多数含まれていることが確認された。

この写真群が利用できるようになったことで得られた成果は以下の点である。

写真と論文などとの照合から、公表された写真以外の関連写真が多数確認された。これにより、過去の研究背景などをより詳細に把握することが可能となり、再検討・再検証の

上で有意義な情報が得られた。また、当時の印刷技術では鮮明に表現することができなかった写真の原版を利用することで、精細な画像を利用することができるようになった。発表以降の研究の進展や別の観点からの研究利用が可能となった。

精細な画像と標本との照合、論文発表年次などとの比較から、(1) 博物館所蔵のエゾシカ剥製や、アイヌ民族資料の収集年次の下限を確定することが可能となったこと、(2) 博物館所蔵ヒグマ頭骨標本（農学部動物学教室旧蔵）に付属するラベルとガラス乾板に記載されている番号、犬飼哲夫が発表した論文に記述されていた標本番号とが合致し、頭骨標本の採集年代、活用実績が明らかとなった。また、論文で引用されていない写真の存在により、文献のみでは明らかにできなかった標本についても情報を追加することができた（加藤ほか 2011）。

また、経年劣化や、保存上の問題から、形状が変化してしまった標本・アイヌ民族資料の原型把握が可能となり、資料の価値向上に貢献した（成果報告書 北原報告）。

また、教育委員会の文化財調査の記録写真や、調査の過程で撮影されたスナップ、北海道大学の建物や学生のスナップなどは、数十年を経過したことで、地域の文化史、大学史の史料として利用できることが確認された。失われた根室市の和田屯田兵村大隊庁舎の写真は、地域史的にも貴重なものと評価され（成果報告書 猪熊報告）、根室市の博物館において企画展示として発表された。この他に、松前地域の寺社建築の変遷や、稚内地域の文化財、石碑類の変化なども写真群から把握され、今後地域史の材料として有効に利用されることが期待される。

この他、北海道大学農学部水産学科講堂や植物園などの写真が含まれており、大学史資料の充実にも寄与することとなった。また、犬飼が南極観測に関わっていたこともあり、稚内の樺太犬訓練所の設置当初の様子や訓練の様子を明らかとする材料を得ることができた。これらを活かして、北海道大学植物園・博物館では企画展示を予定している。

本研究の計画段階においては、上述した成果を期待するとともに、写真群を博物館資料として社会に還元するということを重視した。プロジェクト構成員の関心に基づく研究・事例報告とともに、目録を加えた研究成果報告書を刊行し、研究機関だけではなく、北海道内各地の図書館等に送付し、今後の活用促進を図ったことも成果の一つとして挙げられる。

なお、研究成果とは位置付けは異なるものの、目的の一つとして掲げた安価かつ容易に古写真のデジタル化、データベース化を行うための方法も意義あるものと考えている。ガラス乾板や、様々な形状のフィルムを印画紙に焼き付けることは、近年費用面で大きなコストを要し、また取り扱うことのできる業者やフィルムスキャナーも少なくなっているが、本研究において採用した、普及型デジタル一眼レフカメラとライトボックスによる複写、登録とパーソナルコンピュータ上での階調反転作業により、大量の写真を少人数で、かつ安価にデジタル化することが示された。

この成果により、小規模博物館等に保存されている古写真が有効活用できるようになることが期待される。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）

①加藤 克、高谷 文仁、市川 秀雄、研究者の遺した写真を用いた標本情報の収集について ： ヒグマ頭骨標本を一例に、 北大植物園研究紀要 、査読有、11、2011、1-19

②猪熊 樹人、和田屯田兵村大隊本部庁舎の変遷、根室市歴史と自然の資料館紀要、査読なし、 24、2012、33-43

〔学会発表〕（計２件）

①加藤 克、市川 秀雄、高谷 文仁、大学博物館所蔵古写真の現代的意義と地域還元 第5 回博物科学会、2010、 東北大学

②高谷文仁、加藤 克、市川秀雄、古写真を利用した標本情報の追加、第５ 回博物科学会、2010、 東北大学

〔図書〕（計１件）

①加藤克編、大学博物館所蔵古写真の現代的意義に関する研究、科学研究費補助金研究成果報告書、2012

〔その他〕

①企画展示：古写真にみる北大植物園、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園 2010

②企画展示パネル：北海道指定有形文化財「和田屯田兵村の被服庫」、根室市歴史と自然の資料館、2010

③加藤 克、アイヌ資料とそれを取り巻く情報の保存について、 アイヌ文化財専門職員等研修会、2010

④加藤 克、古い「資料」と古い「モノ」―資料情報の喪失と復元―、 国際シンポジウム　温故知新　―アイヌ文化研究の可能性を求めて―、国立民族学博物館、2011

６．研究組織

(1)研究代表者

加藤　克　(KATO MASARU)

北海道大学・北方生物圏フィールド科学センター・助教

研究者番号：50321956

(2)研究分担者

山崎　幸治（YAMASAKI KOJI）

北海道大学・アイヌ・先住民研究センター・准教授

研究者番号：10451395

北原　次郎太（KITAHARA JIROTA）

北海道大学・アイヌ・先住民研究センター・准教授

研究者番号：70583904

(3)連携研究者

三浦　泰之（MIURA YASUYUKI）

北海道開拓記念館・学芸部・研究員

研究者番号：50300843

(4)研究協力者

市川　秀雄：北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園技術専門職員

猪熊　樹人：根室市歴史と自然の資料館学芸員

内田　祐一：帯広百年記念館学芸員

大沼　忠春：元北海道教育庁主幹

熊崎　農夫博：厚岸町海事記念館学芸員

古原　敏弘：北海道立アイヌ民族文化研究センター研究課長

佐藤　理夫：市立函館博物館主査・学芸員

鈴木　邦輝：名寄市北国博物館館長

角　達之助：北海道立北方民族博物館学芸員

高谷　文仁：北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園技術職員

坪岡　始：標茶町郷土館学芸員

福士　廣志：留萌市学校教育課長

薮中　剛司：新ひだか町教育委員会　新ひだか町静内郷土館学芸員